

2020年6月3日

お客様各位

大阪市此花区島屋4-3-24

太洋株式会社



【 次亜塩素酸水 】に関する一部報道について

拝啓、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先日「次亜塩素酸水」について、新型コロナウイルスへの有効性および安全性について疑問があるとの報道を受け、次の通りご案内申し上げます。

弊社製品「きになるニオイトリぷらす」は、ウイルス対策・除菌・消臭を目的とした弱酸性次亜塩素酸水溶液であり、有効塩素濃度は100ppm、PH6.0-6.8に調整した商品です。製造方法は、原料である次亜塩素酸ナトリウムと希塩酸の混和式です。2019年12月に発売を開始し、その安全性や有効性につきましては、原料メーカーが一般財団法人日本食品分析センターにおいて、刺激性・毒性が無いこと、およびウイルスや細菌への有効性があることを確認しております。

昨今、様々な「次亜塩素水」が発売されておりますが、その有効塩素濃度および液性についても様々です。有効塩素濃度は30~200ppmが主流ですが範囲は広く、液性も酸性~アルカリ性とある為、次亜塩素酸水を一括りで評価することは困難であると思われまます。一言に「次亜塩素酸水」と表現していても、その性質は多岐にわたり、安全性の裏づけ資料がない場合もありますので、製品評価技術基盤機構（NITE）は今回の報道のように警鐘を鳴らしているものと推測されます。

また、新型コロナウイルスの特需から、消毒剤の「次亜塩素酸ナトリウム」を「次亜塩素酸水」と勘違いする消費者や、「次亜塩素酸ナトリウム水溶液」を「次亜塩素酸水」を称して販売する悪徳業者等の存在も確認されているようです。例えば、塩素系漂白剤を薄めたアルカリ性の商品をスプレー噴霧する場合、人体への影響が非常に懸念されます。このように健康被害が懸念される事例もあり、消費者保護の観点から報道強化しているものと思われまます。

新型コロナウイルスの性質は依然として未知の部分が多いですが、この新型ウイルスがインフルエンザウイルスと同様のRNA型エンベロープウイルスであることから、有効性は期待できるものと推測できます。実際に一部大学の研究報告によると、SARS-CoV-2を用いて有効塩素濃度100ppm程度でウイルス不活化を証明した論文が公開されます。この有効塩素濃度が低濃度の場合、不活化の程度が低下することが合わせて述べられております。

弊社は、今般の新型ウイルスの流行に際し、お客様方々のお役にたてるよう、生産・供給に誠心誠意取り組んでいく所存です。今後とも変わらぬお取引を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具